

第9回WHC42会開催記録（2015年3月30日）

2006年に再開(再会)した42会は、2回目以降、桜の時期に、都内の桜の名所で、桜を愛でながら開催してきましたが、なにせ桜のこと、半年前に決めた日程に合わせて咲いてくれるわけでもなく、その年により、まだ蕾だったり、すでに桜吹雪だったり、まちまちでした。東京のソメイヨシノの開花宣言からちょうど1週間後の3月30日、都内の桜の名所中の名所である上野で開催した第9回42会の桜は・・・

この日は朝から晴れ上がり、テレビでは前日(日曜日)の各地の桜が映し出されていました。各局が競って「桜が満開になった上野恩賜公園」を取材しているようにも見え、「今日は絶好のお花見日和」とも叫んでおり、上野へ向かう気持ちが高まってきました。

午前11時30分、JR上野駅の待ち合わせの名所である「翼の像」の前に集まりました。上野駅といえば、WHC現役時代、夜行列車に乗り込むために何時間も並んで待った、そして上越や東北の山を歩く出発駅となった、またある時は汗と泥にまみれて帰って来たなど、幾多の思い出を残す駅ですが、今は13番線からの地上ホームに、わずかな記憶の片りんをとどめるだけです。

すでに上野駅で人、人、人・・・ それらの人に混じり、かき分けるようにして不忍池へ向かいました。青空の下、水面に満開の桜並木を映し、青柳が芽を吹き、池畔にはオオイヌノフグリ、シャガ、タンポポなど春の花が一面に咲いていました。中之島の弁天堂の周りもミニ宴会の人、人、人・・・ 上野の山に上がり、中央園路へ進むと、桜の大木が青空に映えて、まさに桜花爛漫というところ。上野公園内で花も人も一番賑やかなのはここで、平日というのに人、人、人・・・ 国籍の入り混じった人、人、人・・・ 行き交う人の多さもさることながら、園路の両側の宴会用地(?)には、すでに大宴会を始めているグループあり、夜の宴会に備えた陣取りの人あり、我々もできることならシートを敷いて車座になって一杯やりたいという声も出ましたが、今日はそういうわけにはいきません。ぶらぶらと合計1時間歩いて、会食場の鷗外荘に入りました。

まずは42会産みの母・縹(日向寺)の開会宣言、次いで9回目まで皆勤賞継続中5人のうちの1人・小関(唐木)の発声による乾杯で宴会開始。グラスや盃を傾け、美味しい懐石料理に舌鼓を打ち、ひとしきり歓談の後、近況報告へと移りました。全員が70歳の大台を越え、劇的な変化を語る人はなくなりましたが、それぞれの日常の過ごし方など興味深い話が聞かれました。この鷗外荘は、その名のとおり明治の文豪・森鷗外の旧居を敷地内に保存指定してある鷗外ゆかりの店ですが、42会主流派の国文科出身者から格別その話題は出ませんでした。今夏の乗鞍高原でのOB夏合宿の参加者募集が行われ、昨秋に都落ちした新妻の音頭で中締めとなりました。いつになくアルコールの消費量が多かったのは、満開の桜に酔ったせいとか、13品の料理のせいとか、普段控えてこの時ばかりと張り切ったのか。引き続き、館内のレストランでコーヒータイムに移り、グループを変えてしばらく歓談の後、4時20分に散会しました。

この日の参加者は過去最多の18名(第6回、六義園)に1名及ばぬ17名でした。

鷗外(おうがい)を折り込み詠める・・・「桜花爛漫 上野に集う 岳友たちの いい笑顔」

